

音楽イベントにおける混雑に伴う事故等原因調査について (経過報告)

令和 8 年 9 月 30 日
消費者安全調査委員会

消費者安全調査委員会（以下「調査委員会」という。）が事故等原因調査を行っている「音楽イベントにおける混雑に伴う事故」（以下「本件調査」という。）について、当該調査を開始した日（令和 7（2025）年 9 月 25 日）から 1 年以内に本件調査を完了することが困難であると見込まれる状況にあるため、消費者安全法（平成 21 年法律第 50 号）第 31 条第 3 項の規定に基づき、本件調査の経過等について報告する。

なお、調査委員会による調査は、事故の責任を問うために行うものではない。

1 本件調査を行うこととした理由

令和 6（2024）年、調査委員会は、屋内施設で開催された音楽イベントの開始前、入場口から座席までの通路付近が来場者で著しく混雑し、体を横にして人の間から抜け出すこともできず、あちこちから声が上がるほどの体圧を感じる状況が 30 分程度続いた、との申出を受けた。

当該事案では来場者の生命・身体に具体的な被害が発生した事実までは確認されていないが、一般に屋内施設で開催される音楽イベント等では、その開始前又は終了後に多数の来場者が一斉に移動するにもかかわらず、入退場口を通過可能な人数が限られているためにその周辺での混雑が発生しやすく、混雑の状態によっては一人の転倒が引き金となって周囲に連鎖的に波及するなどの群集事故が起こる危険性がある。

実際、近年においても、屋内施設での音楽イベントにおける入退場時の混雑に伴う事故により来場者の身体に被害の生じたとされる事例が報道されているほか、調査委員会がデータベース等より収集した事故情報の分析によれば、屋内施設での様々な音楽イベントの入退場時において来場者の集中による危険の生じ得る場面の少なくないことが確認されている。

特に今日では、いわゆる「押し活」が盛んとなるなどの消費者行動の多様化もあり、音楽イベントの来場者数・市場規模が増加・拡大するとともに（図 1）¹、従来型の音楽ホールの老朽化に伴う不足もあって大人数を収容可能な多目的施設を利用した大規

¹ ぴあ総合研究所株式会社「ライブ・エンタメ市場規模は、過去最高の8千5百億円超え。2035年には1兆円台に／ぴあ総研が2025年調査結果を公表」．ぴあ．2026-06-17,
https://corporate.pia.jp/news/detail_live_enta_market20260617.html, (参照 2026-09-18)

模公演が多数開催されている状況にあるところ、こうした施設では、音楽イベントの入退場時等のような多くの来場者が一斉に移動する場面を想定した構造・機能とは必ずしもなっていない場合があり、そのため来場者の一時的な集中によって会場内外の特定の箇所において混雑が生じ、生命・身体被害が発生する事故に至るおそれが潜在的により高まっていると考えられる。

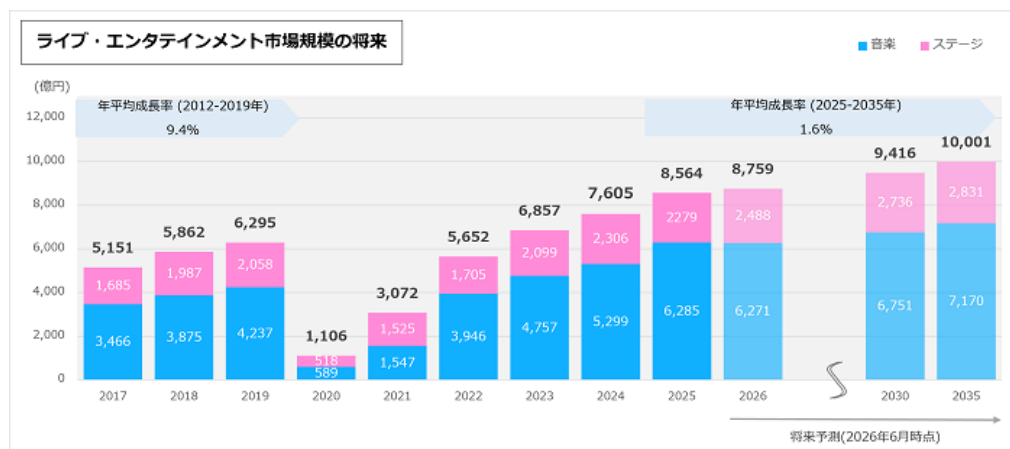


図1 ライブ・エンタテインメント市場規模の将来（びあ総合研究所株式会社）²

もっとも、このように事故の可能性が懸念される一方で、物価上昇や労働人口の減少に伴い、音楽イベントの開催に必要な予算・人材の不足がその安全管理に与える影響を指摘する見解は少なくない。

そして、屋内施設という限定的・閉鎖的な空間で開催される音楽イベントにおける混雑の発生状況、発生要因及び対策方法については、過去の事例の研究や個別の経験に基づく知見が各所に存在するものの、花火大会等の屋外での各種イベントの場合とは異なり、これらが社会経済情勢の変化を反映した上で体系的に整理されイベント関係者の間で広く共有されているとまでは必ずしもいえないのが現状である。

そこで、調査委員会では、こうした事情を踏まえ、音楽イベントにおける混雑に伴う事故によって来場者（消費者）の生命・身体に大きな被害が生じる前に安全対策を検討しておく必要があると判断し、本件調査を行うこととした。

2 本件調査の概要

（1）調査の対象

音楽イベントは多様な場所で実施されるが、本件調査では特に、公演前後の短時間に来場者が集中することによる混雑が、イベント主催者ら施設利用者の管理下に

² 前掲注1

ある入退場口等の閉鎖的・制限的な空間で発生しやすいという屋内施設での音楽イベントの特性を踏まえ、①建築基準法（昭和 25 年法律第 201 号）上の建築物として構成される空間及び②当該建築物に附属する敷地内にあって、施設利用者が管理、誘導その他安全確保に関する措置を講ずることが予定される空間における事故・事象を主たる調査対象とする。

その上でさらに、屋内施設の中でも具体的には、個々の音楽イベントの都度に座席、ステージ配置、動線等が新たに設定されるという構造面・機能面での特性があり、かつ来場者数が一定規模以上となることによって混雑に伴う安全上の問題が相対的に顕在化しやすい類型のものとして、アリーナ、スタジアム（ドームに限らない）及び多目的ホール（常設席のない展示場等）の各施設における音楽イベントを中心として調査を進めている。

（２）調査の方法・内容

ア 事故情報の収集及び分析

消費者庁が管理運営する事故情報データバンク、東京消防庁の救急搬送データ、特定非営利活動法人災害情報センターの災害情報データベース等を用いた調査、さらには SNS への投稿を対象とするテキストマイニング³を実施することにより、過去約 10 年間の事故関連情報を収集しその分析を行った（図 2）。

事故に関連する投稿が毎年一定数あり、その増減は、前記の音楽イベント全体の来場者数・市場規模の変化とおおむね傾向が一致している。

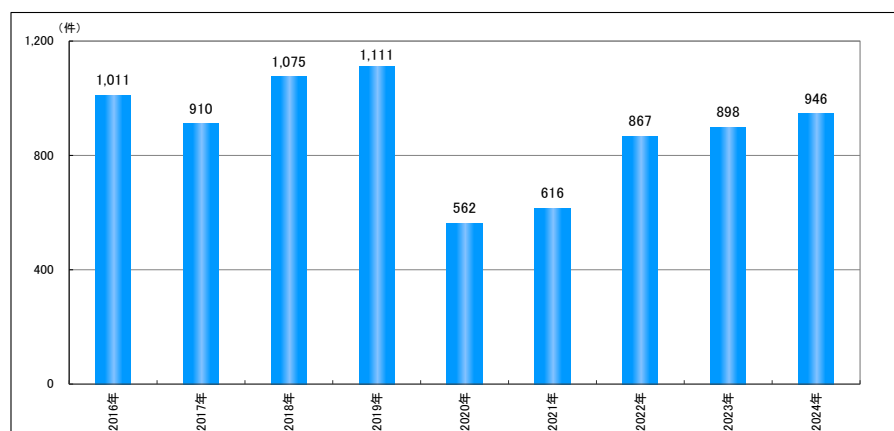


図 2 音楽イベントにおける群集事故に関連する SNS（X：旧 Twitter）投稿の件数

³ 調査委員会において、次の 3 条件の全てを満たす投稿を抽出したものである。①群集事故に関連する物理的・空間的な混雑状況（例：混雑、殺到、将棋倒し、入場規制等）を示す語を使用したもの、②群集事故が発生しやすいイベント種別（例：ライブ、コンサート、フェス等）に関する語を使用したもの、③群集事故の兆候を補完的に捉えるものとしてのイベント参加者の心理的負荷（例：ヤバい、つらい等）、誘導の状況（例：入場、退場等）、身体的な困難（例：潰され、身動き等）を示す語を使用したもの。

イ 法令・安全基準、イベント運営の実情等の調査

音楽イベントが開催される各種屋内施設の設置・管理や利用に関わる建築基準関係法令、消防関係法令、警備関係法令及び国際規格等の調査のほか、行政機関・各業界団体が作成しているガイドラインやマニュアル類等を収集しその内容を分析した。また、実際に開催されている各種音楽イベントの現地視察のほか、イベント主催者、プロモーター、施設管理者、警備業者、各業界団体、警察・消防等からイベント運営の実情についてヒアリングを実施した。

現状では火災時の避難安全に関する場合等とは異なり、入退場時のような日常的な場面での混雑による危険の程度及び対策の効果について、音楽イベントごとの特性を考慮した詳細な評価を行うための方法や基準はルール化されていない。音楽イベントにおける混雑に伴う事故を防止するための具体的な取組は、主として来場者（消費者）の安全確保一般を担うべきイベント主催者（運営を受託したプロモーターを含む。）に委ねられており、これに加えて施設管理者や警備業者らも立場に応じた役割を分担する場合がある。

ウ アンケート調査

屋内施設での大規模な音楽イベントにおける混雑や安全面に関する不安がどのような段階、場所及び状況において認識されやすいか、またどのような安全対策が有効であるかなどについて把握をすることを目的に、おおむね最近1年間に開催された収容規模 5,000 人以上の屋内型音楽イベントの来場者（消費者）及び同種のイベントの開催経験がある主催者等の事業者を対象とした各アンケート調査、さらには一部の回答者に対する個別ヒアリングを実施した。

回答結果の整理及び分析を進めているところであるが、少なくない数・割合の消費者が音楽イベントにおける混雑や安全面に関し危険な状況を経験し、事業者の多くも混雑や安全面に関し更なる対応や工夫の必要性を感じている（図3、表1）。

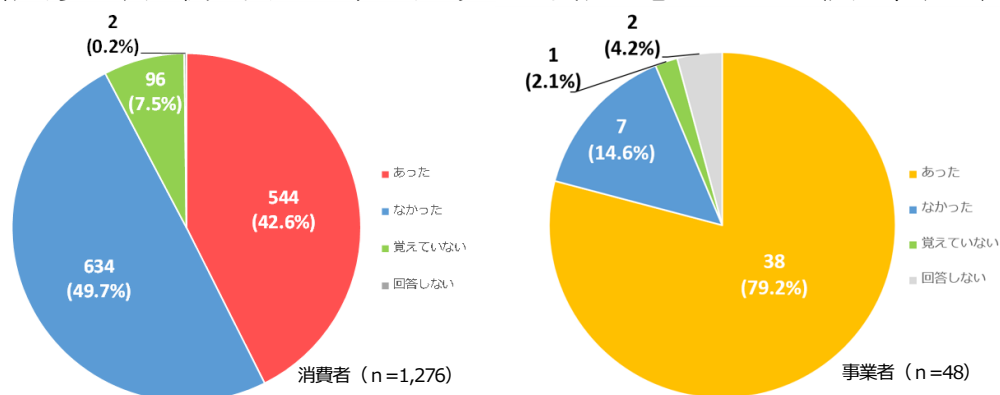


図3 屋内型音楽イベントの開演前や退場時等（演奏中を除く）に混雑・安全面で気になった経験があるとした消費者（左）
混雑・安全面に関し更なる対応や工夫の必要性を感じた経験があるとした事業者（右）

表1 混雑・安全面で気になった経験をした消費者による具体的な状況についての回答例
(自由記載による404件の回答から5件を抜粋)

開催時期	その時の様子
2025年3月頃、 2025年4月頃	退場時、エスカレーターの待機列付近がかなり混雑し身動きがとれなかった。自分や周囲の人が転けて圧死の事故のようなことが起こらないか不安になった。
2025年5月	入場の人とグッズ購入の人と、グッズ交換の人がごちゃごちゃになっていて何の列かもわからず、とにかく動けなかった。将棋倒しと熱中症が怖かった。
2025年12月	階段がグッズの待機列になっている部分があって、上から下まで折り返し何列も階段に並んでいるのが怖かった。しかも1時間以上。退場時に公演後に出るデジタルサイネージを撮りたい人が立ち止まって押し合いになっていたのが危なかった。
2026年2月	階段を降りる際の人の密集。ドミノ倒しになりそうで怖かった。
2026年2月頃、 2026年3月頃	身動きが取れないほど混雑していた。戻りたくても戻りにくい状況

また、主催者等の事業者が安全対策を含む音楽イベントの運営計画を検討する際に参考になっている情報や資料としては、同一会場での過去イベントの実績等といった個々の経験的な知見が多い(図4)。

一方で、体系化・共有化された知見であるガイドライン等については、施設管理者の業界団体が作成したものなどが一部利用されているにとどまるため、改めてその充実を求める意見もある。

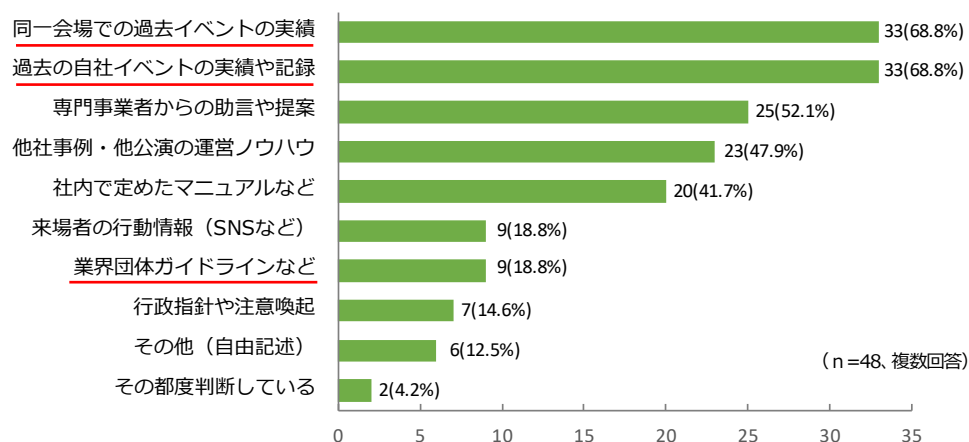


図4 事業者が安全面や混雑対応を含めた音楽イベントの運営計画を検討する際に参考としている情報・資料

そのほか、アンケート調査においては特に、イベント会場におけるスマートフォン・SNSの利用、チケットやグッズの交換等といった、消費者の行動特性が混雑に与える影響を指摘する意見があり、調査委員会としても究明のための調査を行っている。

エ 群集シミュレーション

人の流れを可視化して建築物の設計や避難計画の検証等への利用が近年特に進みつつある群集シミュレーションの技術を本件調査に活かすべく、音楽イベントが開催される屋内施設の構造、会場内レイアウト及び観客の行動特性を一定程度に条件設定した上で、混雑発生の可能性・程度やその要因、さらには対策方法の有効性についてより客観的・数量的に解析・評価することを試みている。

3 今後の調査

調査委員会では、引き続き作業を行うアンケート調査及び群集シミュレーションで得られた情報等に基づき、音楽イベントにおける混雑を伴う事故が発生し得る要因を分析した上、音楽イベントの安全が確保されるよう、再発防止策の検討を進める。